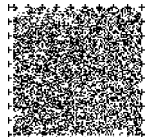


第5章

計画の推進



計画の推進のために

本計画は、基本理念である「ともに生き、ともに安心して暮らすことのできる地域社会づくり」の実現を目指して、市と社協との連携のもと、市民、各種団体、ボランティア、福祉サービス事業者等と連携・協力し、それぞれの役割を果たすことにより取り組んでいくための総合的な指針としての役割を担っています。

計画の推進にあたっては、地域福祉の担い手である地域住民の主体性を最大限に尊重し、それぞれの取り組みを進めていきます。

1

「みんなでつくる福祉のまち」をめざしたそれぞれの取り組み

（１）期待される市民の取り組み

地域福祉を推進していくためには、市民が積極的に地域福祉に参画していくことが重要です。

具体的には、地域福祉の担い手として、まずは身近なところで声かけや手伝いなど自分がすぐに取り組めることを実践し、地域福祉活動へつなげていくことが期待されます。

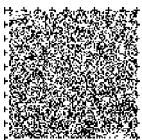
そのため、様々な講座や研修、地域の集いの場、地域活動、ボランティア活動等に積極的に参加することが望まれます。

また、地域包括ケアシステムの実現に向け、概ね学校区の生活圏において、支え合いの仕組み等を構築していくことが求められています。

（２）期待される地域団体等の取り組み

地域では、福祉活動の充実が図られており、また、各種団体の活動も活発化してきています。市民に最も身近な組織である区長会や自治会、地区コミュニティ協議会、老人クラブ、市民活動を行うNPO等の団体については、市民が具体的な活動への第一歩を踏み出すきっかけづくりとしての役割が期待されます。

さらに、社会福祉法人においては「地域における公益的な取り組みが責務」と法に明記されたことから、地域における新たな役割が期待されたところです。そのた



め、市と社協は、市民や団体等へ積極的な情報発信を行うとともに、地域団体との一層の連携を強化することが望まれます。

(3) 市の役割

福祉の向上を目指した地域福祉の推進に当たり、福祉施策を効率的・効果的かつ総合的に推進し、公的なサービスを適切に提供していく責務と役割があります。

また、全庁的な体制のもと、横断的な視点で各事業を実施するとともに、社協、地域で福祉活動を行う関係団体等と連携・協力を図りながら、計画を推進していきます。

さらに、市民の地域福祉活動への参画を促すため、参加機会の充実に努めるとともに、各関係機関等とのネットワーク化を図り、総合的な相談支援体制の強化や情報提供の充実に努めます。

(4) 社協の役割

地域福祉推進の中核を担う組織として、市と協働して地区あったか会議をはじめ、区長会や自治会、地区コミュニティ協議会、民生委員・児童委員協議会、ボランティア、NPO、福祉施設等との連携をさらに深め、計画を推進していきます。

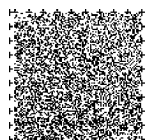
また、地域福祉活動を実践する福祉委員等やボランティアの育成及び資質向上を図るとともに、新たな地域福祉活動の担い手を増やすため、講座や事業等を実施します。

さらに、孤立の防止、権利擁護事業に取り組むなど、誰もが住み慣れた地域で誰もが安心して生活でき、それぞれの力を出し合い、支え合う仕組みづくりを地域住民との協働で構築していきます。

2 計画の周知及び普及啓発

市及び社協は、本計画で示した取り組みと方向性について、計画の概要版や広報紙、ホームページなどにより公表し、市民の理解と参加・協力を求めながら、周知を図り、地域における主体的な活動を促進していきます。

より普及を図るため、ワークショップを開催するとともに、出前講座やメール配信などを通じて、具体的な取り組みや活動事例などを紹介します。

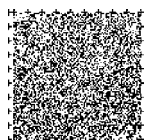
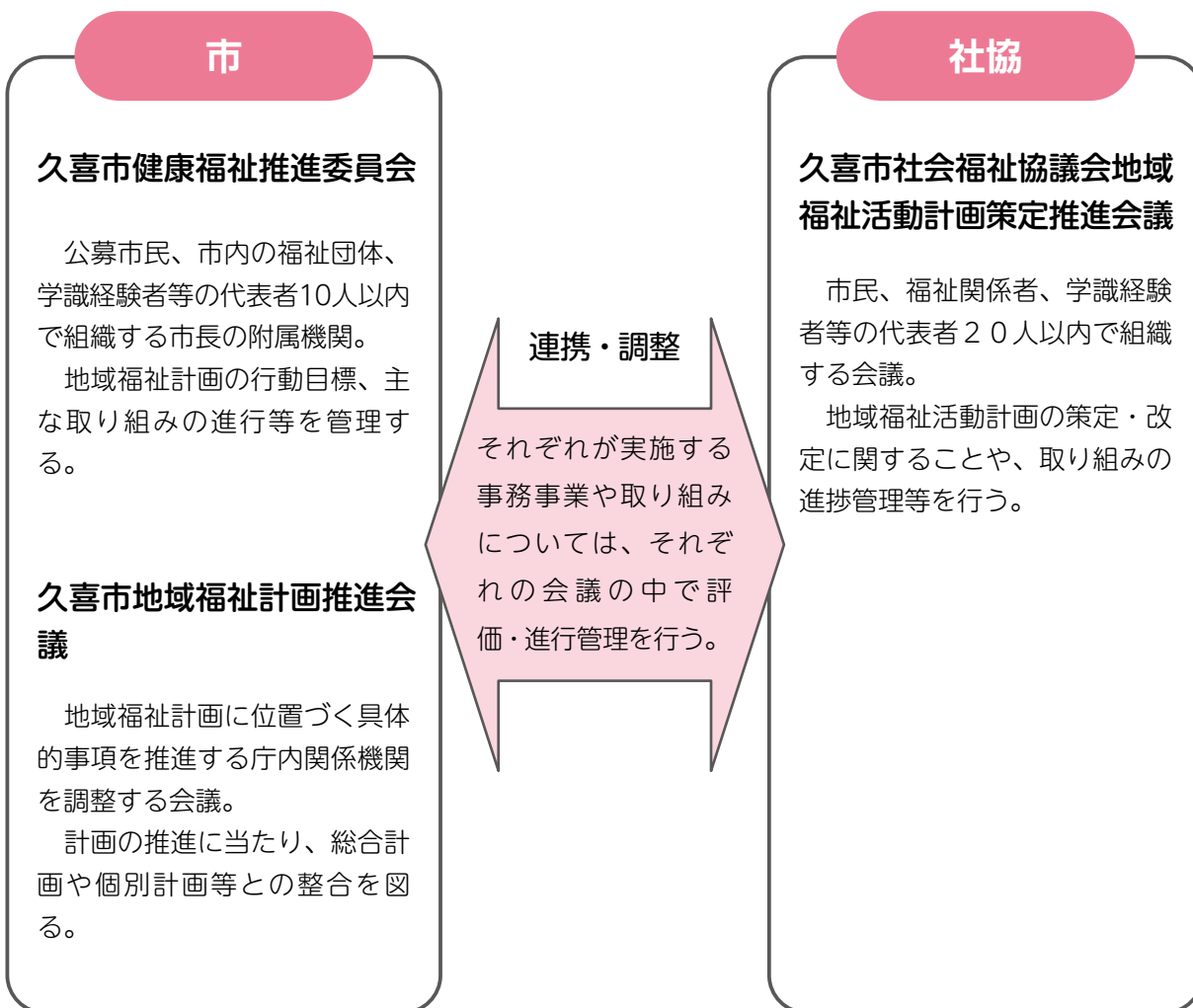


3 計画の進行管理体制

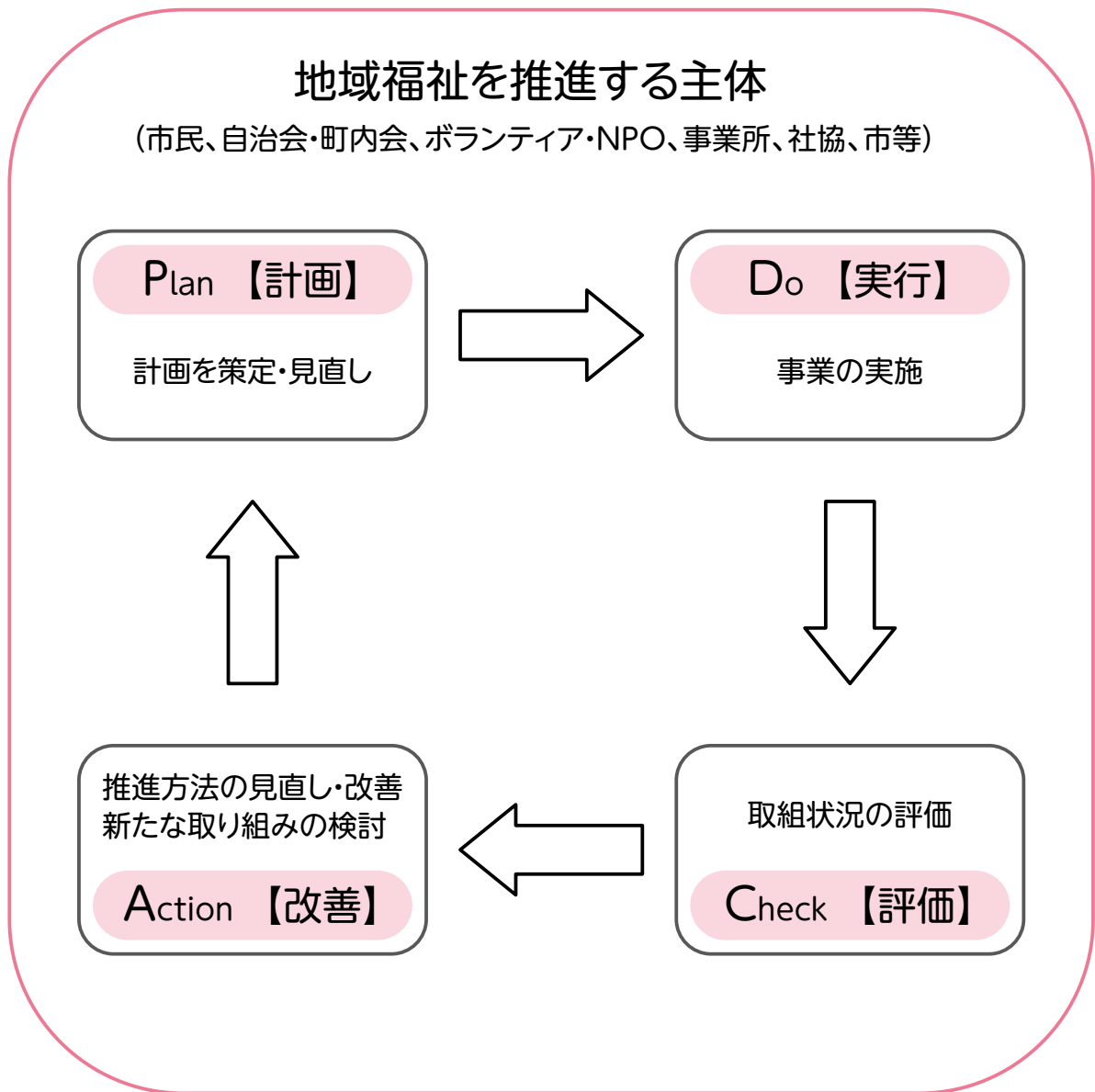
本計画については、社会経済情勢の変化や多様化する生活ニーズに的確にこたえながら、効果的かつ着実に推進していきます。

計画を推進及び進行管理するための体制として、本市の附属機関である「久喜市健康福祉推進委員会」及び庁内会議の「久喜市地域福祉計画推進会議」「久喜市地域福祉計画推進会議作業部会」、社協が設置する「久喜市社会福祉協議会地域福祉活動計画策定推進会議」において、計画の進捗状況を把握、検証するとともに、取り組みを評価します。併せて、計画期間中に社会環境の変化や法制度の変化が生じた場合、必要な見直し等を行っていきます。

■進行管理体制のイメージ

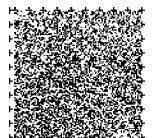


■地域福祉計画・地域福祉活動計画の継続的な推進イメージ



4 計画の見直し

計画の推進にあたっては、計画期間中の社会情勢の変化、国や県の動向、分野別計画の変更などを十分に見極めつつ、効果的かつ効率的な運用に努めるとともに、必要に応じて計画の見直しを行います。





ボランティア体験プログラム（高校生ワークキャンプ）



ボランティア体験プログラム（手話体験）

